



令和4年度 在宅医療・介護連携推進支援事業 市町村等担当者研修会議



鹿児島県 薩摩川内市

保健福祉部 高齢・介護福祉課

課長 中俣 賢一郎

薩摩川内市の概要



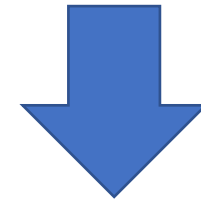
- 1) 人口 (2023.1.1現在)
92,248人 (46,292世帯)
(男性: 44,721人 女性: 47,527人)
- 2) 高齢化率 (2023.1.1現在)
32.9%
- 3) 介護保険認定率
2023.1.1現在 19.8%
- 4) 介護保険認定者数 (2023.1.1)

要支援 1	729人	要介護 1	1,370人
要支援 2	798人	要介護 2	1,071人
		要介護 3	742人
		要介護 4	825人
		要介護 5	479人
			計6,014人
			事業対象者 94人



平成16年10月12日 市町村合併
1市4町4村

(川内市、榑脇町、入来町、
東郷町、祁答院町、里村、
上甑村、下甑村、鹿島村)



薩摩川内市誕生

■在宅医療・介護連携推進事業の立ち上げ

- 市内には2つの医師会があることから、
平成27年度から**川内市医師会**及び平成28年度から**薩摩郡医師会**に業務委託開始
川内市医師会…旧川内市エリアを管轄
薩摩郡医師会…薩摩郡エリア（さつま町、旧樋脇町、旧入来町、旧東郷町、旧祁答院町、旧里村、旧上甕村、旧下甕村、旧鹿島村）を管轄

- 平成29年度から**薩摩川内市歯科医師会**にも業務委託開始
（現在は川内市医師会に統合されている。）

参考

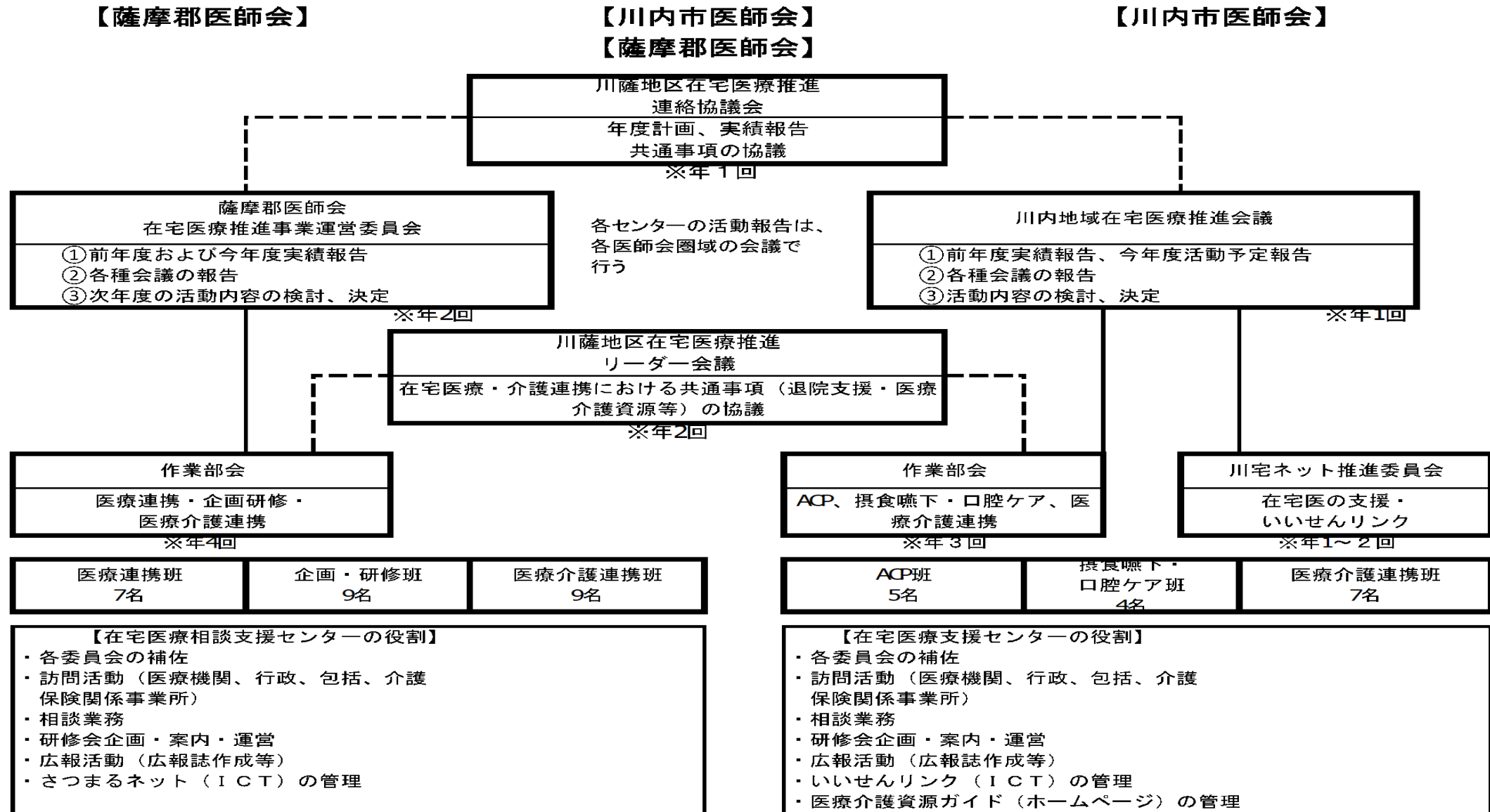
- ※川内市医師会 ⇒ 委託は平成27年度からであるが、平成25年度及び平成26年度は補助金を交付し、在宅医療支援センターの立ち上げを支援。

- ※薩摩郡医師会 ⇒ 平成25年度から平成27年度までは、県医師会の在宅医療推進地域支援事業を受託し実施。

- ※市として ⇒ 両医師会へは、平成25年度当初より担当職員がメンバーとして参加していた。

■在宅医療・介護連携推進事業の組織体制

令和4年度 川薩地区在宅医療推進体制



薩摩川内市の目指すべき姿

住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けることができる。

(本市の介護保険事業計画の「基本目標」より。)

そのためには、本人の意思表示と、その意思を実現するための体制づくりが必要。

薩摩郡医師会の在宅医療相談支援センターが、平成25年度及び平成26年度に行った、多職種の見解交換会において、体調急変時において救急搬送される等の場合、本人の意思確認が難しい状況があり、高齢者本人・高齢者に寄り添っていた専門職・救急にあたる人にとっても問題となっているとの意見が多かった。

具体的な課題としてどのようなものがあるか、作業部会で話し合った。



救急隊が、本人のご意向に添った搬送をどうするのか。



救急隊からの、かかりつけ医のアプローチはどうするべきか。



緊急時対応の場面における、在宅医療・介護の専門職と救急隊との連携による情報共有の課題。

また、事前に高齢者ご本人の意思確認が重要であるが、高齢者の一人暮らし、高齢夫婦のみの世帯、県外に家族がいるなど、意思確認が出来ないなどの問題があった。

このため、看取りの場面のみならず、医療と専門職の連携による、高齢者ご本人の意思の確認が重要であると考えた。

もう一つの課題として

在宅医療に従事する医師の負担軽減

患者様の情報があれば後方支援病院の受け入れもスムーズになるのでは？



救急搬送時の情報提供書を**事前に記入**することで、在宅医と受入医療機関の医師両方の負担軽減につながるのではないか！！



在宅医療推進チーム員会議（現在の組織では「作業部会」）で、緊急搬送時の情報提供書について検討。

課題に対する対策として



あんしん医療連携シートの作成（薩摩郡医師会）

「あんしん医療連携シート」は医師に作成して頂く必要があり、以下の対応を行った。

- ・ **薩摩郡医師会**
三師会（医師・歯科医師・薬剤師）の研修会に出向き説明。
- ・ **川内市医師会**
総会に出向き説明
- ・ この「あんしん医療連携シート」は点数化されていないので、作成する医師は無償で作成する必要がある。しかし、無償ではあっても、これは必要なものであると、各医師会にご理解頂けるようお願いした。

あんしん医療連携シート（補足説明）

- 1 薩摩郡医師会在宅医療相談支援センターが作成したもの。
（平成27年3月完成し、同年4月から運用開始。）
令和元年11月に内容見直しを行い「あんしん医療連携シート」と名称も変更している。**
- 2 主に、薩摩郡医師会の医師が自身の患者に対して作成している。**

薩摩郡医師会で作成したものであり、川内市医師会には、別途以下の説明を行い了承を得た。

- ・川内市医師会の会員が使用することは構わない。また利用して頂きたい。**
- ・薩摩郡医師会管轄から、患者が川内市医師会管轄内の医療機関に救急搬送された場合、この「あんしん医療連携シート」を持参することも想定されるので、承知して欲しい。**

次ページ以降、様式・活用事例等を示す。

あんしん医療連携シート活用のフローチャート

【担当者】

作成時

かかりつけ医は、取り扱い方法に沿ってあんしん医療連携シートを作成する。不明な点は患者及び家族又はケアマネジャーに確認する。完成したらコピー分を専用容器(あんしんカプセル等)に容れ、患者又は家族に渡し、自宅の冷蔵庫に保管し、緊急に医療機関を受診する際に持参するよう説明する。

かかりつけ医、患者様又はご家族、ケアマネジャー等

あんしん医療連携シートを在宅医療相談支援センター(53-4711)へFAXする

かかりつけ医

あんしん医療連携シートが届いたら管轄消防署に患者名と住所をFAXにて連絡する

在宅医療相談支援センター

救急要請

救急要請

搬送時

事前情報からあんしん医療連携シート記載者の場合は、指令書にて周知する

患者宅の冷蔵庫表面に「あんしんカプセル」または「あんしん医療連携シート有」の表示があった場合、冷蔵庫内の保管容器内を確認し搬送先へ持参する。
※容器内に用紙が無い場合は在宅医療相談支援センター(53-4711)へ連絡し、搬送先医療機関を伝える。

入院時

あんしん医療連携シートを受け取った場合は、記載医療機関へ連絡する

退院時

あんしん医療連携シートはご本人またはご家族にお返しする。
死亡された場合は、在宅医療相談支援センターに連絡する(0996-53-4711)

消防署

受入医療機関(連携室)

在宅医療相談支援センター

受入医療機関(連携室)

本人同意について

あんしん医療連携シートに以下を記載している。

「本人またはご家族へ」

▲あんしんカプセルは自宅の冷蔵庫に保管し、救急搬送時や、かかりつけ医以外の医療機関を緊急に受診される際にご持参ください(冷蔵庫への保管をもって、情報を救急医療活動に利用することへの同意とみなします)。

ケアマネ等、福祉専門職への周知

- 作業部会には、多職種メンバーが部会員であり、各部会員がそれぞれの職種に対し周知を図る。
- また、在宅医療相談支援センター職員が、それぞれの職種の集まり(協議会等)に出向き、「あんしん医療連携シート」の意義、利用について啓発を行った。

薩摩郡医師会 「あんしん医療連携シート」

No1

あんしん医療連携シート(新規・更新) 作成日 年 月 日

ふりがな		性別	生 年 月 日		要介護度
患者氏名		男・女	明・大・昭・平 年 月 日 (歳)		
住 所				電話番号	
ふりがな	本人との 関係	連絡先	住所		
キーパーソン名			電話番号		

緊急時連絡先

家族氏名	続柄	電話番号	住 所

緊急時の延命治療を希望しますか？
※いつでも変更可能です 希望する 希望しない 分からない

かかりつけ医 () TEL: (- -)

搬送先医療機関名	希望①	希望②		
主病名	①			
	②			
	③			
注意事項	抗血小板・抗凝固剤	インスリン・経口血糖降下薬	禁忌・アレルギー	ペースメーカー 補込
	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
	構音障害	難聴	NET119への登録	
	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要	
救急隊への 連絡事項				
医師の意見 (連絡事項)				
サービス事業所等	事業所名	担当者	電話番号	備考(携帯等)
居宅介護支援事業所				
訪問看護ステーション				
ヘルパーステーション				

記載医師サイン

No2へ

お薬手帳情報をコピーし貼付してください

No2

<取り扱い方法>

「かかりつけ医へ」

- ▲あんしん医療連携シートは、かかりつけ医が必要と判断した場合、作成してください(不明な点は、本人またはご家族、ケアマネジャー等に確認してください)。完成したあんしん医療連携シートはコピーし、あんしんカプセルに入れ、本人またはご家族にお渡しください。
- ▲本シートを作成されました際は、薩摩郡医師会在宅医療相談支援センターへFAX(0996-53-4711)にて送信下さいます様、併せてお願い致します。
- ▲情報は、1年を目途に更新をお願い致します。

「本人またはご家族へ」

- ▲あんしんカプセルは自宅の冷蔵庫に保管し、救急搬送時や、かかりつけ医以外の医療機関を緊急に受診される際にご持参ください(冷蔵庫への保管をもって、情報を救急医療活動に利用することへの同意とみなします)。

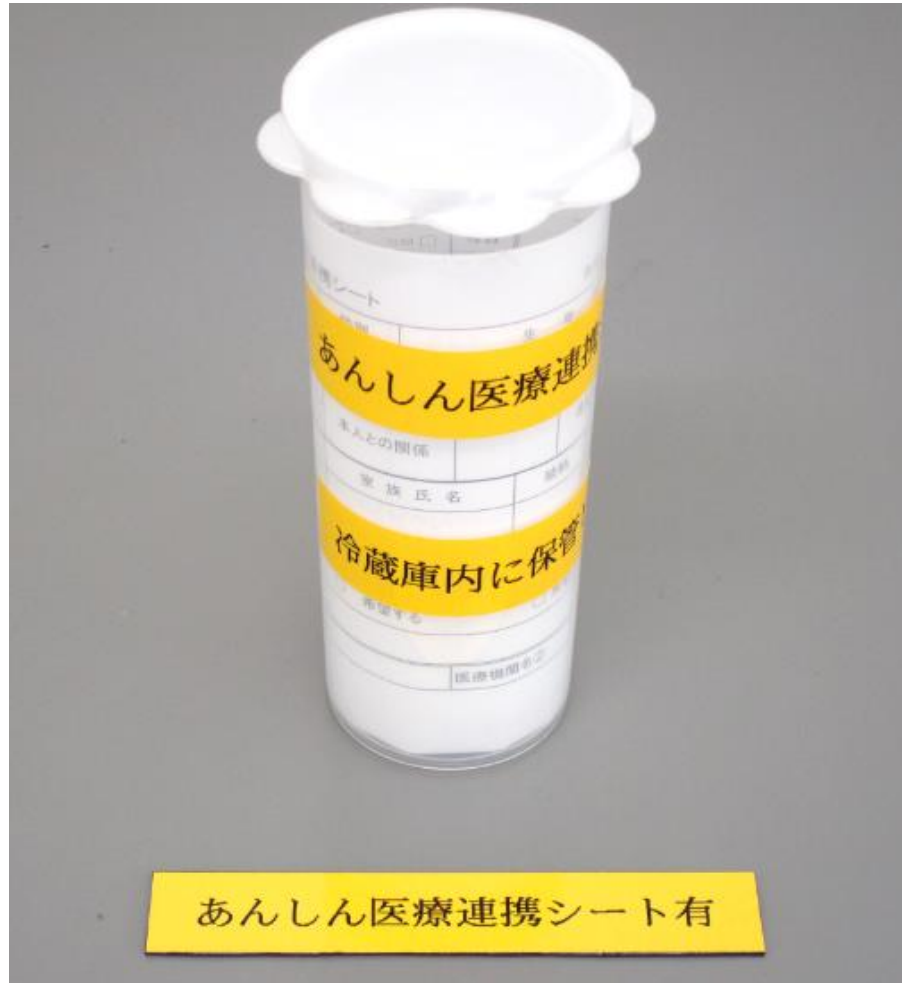
本シートは、平成26年度薩摩郡医師会在宅医療推進地域支援事業により作成し、令和元年度にあんしん医療連携シートと名称を改め、さらに令和3年度に内容を一部改訂いたしました。
本シートに関するお問い合わせは、薩摩郡医師会在宅医療相談支援センター(0996-53-4711)までご連絡ください。

薩摩郡医師会 「あんしん医療連携シート」 記載例 (一部拡大表示)

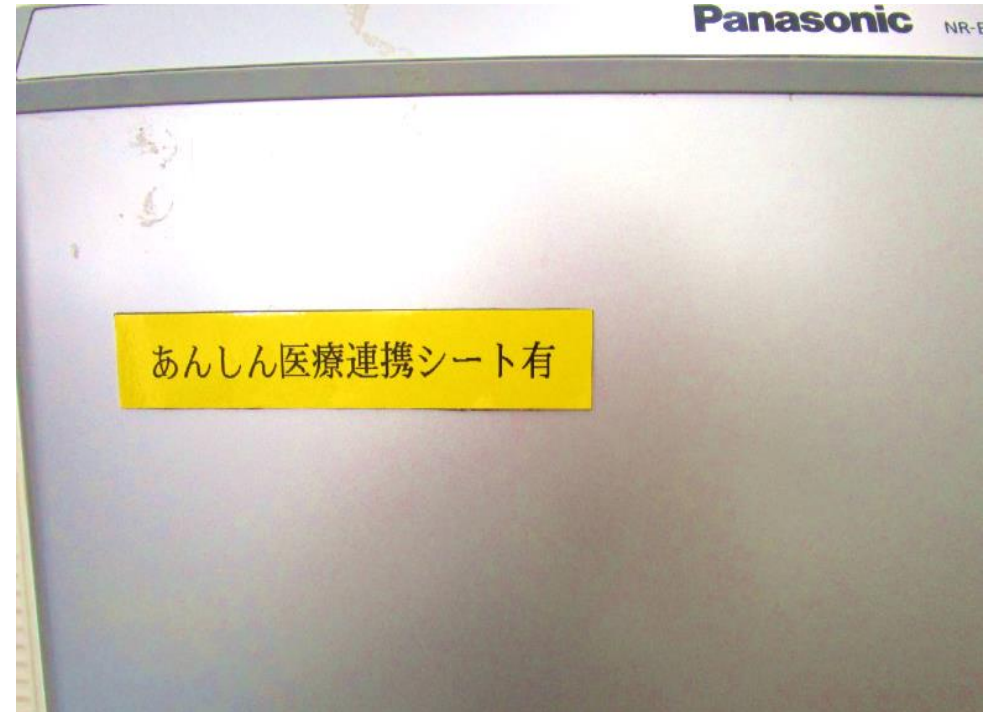
注意事項	抗血小板・抗凝固剤		インスリン・経口血糖降下薬		禁忌・アレルギー		ペースメーカー 植込	
	<input type="checkbox"/> 有	<input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有	<input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有	<input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有	<input checked="" type="checkbox"/> 無
	構音障害	<input type="checkbox"/> 有	<input checked="" type="checkbox"/> 無	難聴	<input checked="" type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無	NET119への登録	<input checked="" type="checkbox"/> 要
救急隊への連絡事項	<p>甲状腺癌で肺転移や左鎖骨部リンパ節転移があります。御家族は積極的治療は望まず、自然経過を望まれています。薩摩郡医師会病院をはじめとする近医への搬送をお願いします。</p>							
医師の意見 (連絡事項)	<p>甲状腺癌で二回の手術歴があり、肺転移もあって化学療法歴もあります。高齢であり御家族も積極的治療は望まれていません。侵襲的延命治療は行わずに薩摩郡医師会病院にて看取っていただければ幸いです。</p>							

薩摩郡医師会 「あんしん医療連携シート」

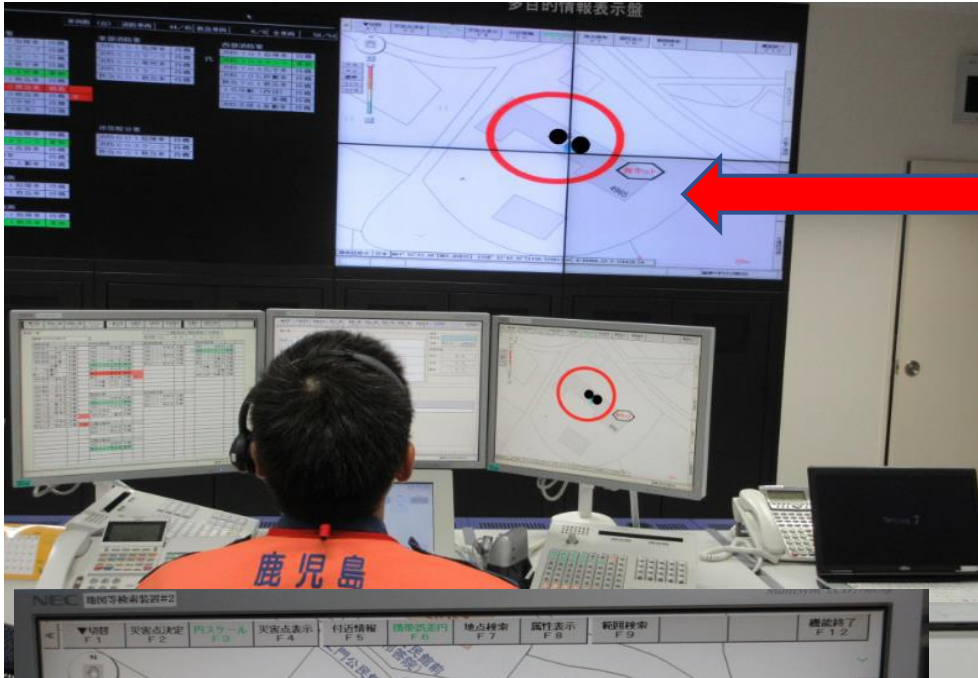
冷蔵庫に入れておくための容器



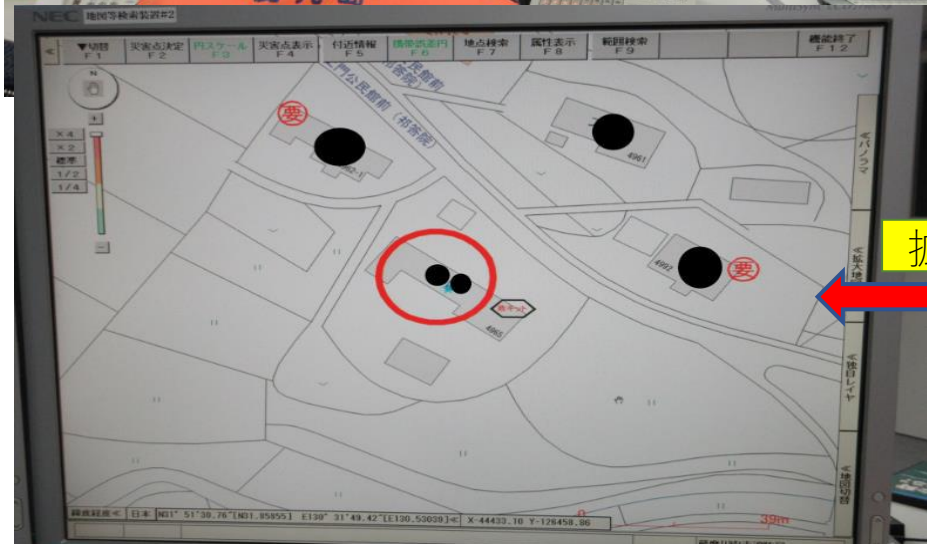
冷蔵庫表示



薩摩川内市消防局の協力



119番通報時の地図情報に、シートがある家は表示がされる。
(指令室及び救急車内)




拡大図



救急車内の表示

さつま町消防本部の協力

指令書				
付番号	161200055	事業番号	000003000	加入電話
知時刻	2016/12/12 10:09:02	指令時刻		通信員
災害種別	救急	災害区分	急病(一般)	災害規模
災害種別	救急	災害区分	急病(一般)	第一出動
出動住所	[Redacted]			
標物名称	【在宅医療連携S有り】			
地図位置	[Redacted]			
緯度経度	北緯：031° 55' 26.29" 東経：130° 32' 37.46"			
事業CH	さつま 消防波1 事業01			
災害付近地図				

救急車出動時に出される指令書に表示されています

参考：薩摩川内市消防局の救急キット

救急キットの容器



冷蔵庫に表示



救急キットの内容

救急情報

住所	〒 ー			電話番号
氏名	フリガナ	性別	男 女	自宅
生年月日	明治 ー 年 ー 月 ー 日	血液型	ー 型	携帯
病院名	通院している医療機関	通院している医療機関	保険証 有り 無し 保険証番号	
症状	通院している医療機関	通院している医療機関		
病院名				
症状				
服薬内容				
持病				
アレルギー				
緊急連絡先氏名		続柄	電話番号	住所
(1) フリガナ		自宅	〒 ー	ー
		携帯		
(2) フリガナ		自宅	〒 ー	ー
		携帯		
(3) フリガナ		自宅	〒 ー	ー
		携帯		
同意欄	容器の中に入っている医療情報を、薩摩川内市消防局の救急隊・消防隊及び搬送先医療機関が、救急医療に活用することに同意します。また、緊急時に緊急連絡先へ連絡することに同意します。			
	本人氏名			

薩摩川内市消防局も、市内の希望する住民へ、救急キットを配布している。（平成26年度から）
令和5年1月1日現在、約3,700個配布。
（通信指令台にも配布先は入力済み。）

現在までの利用者数及び現状

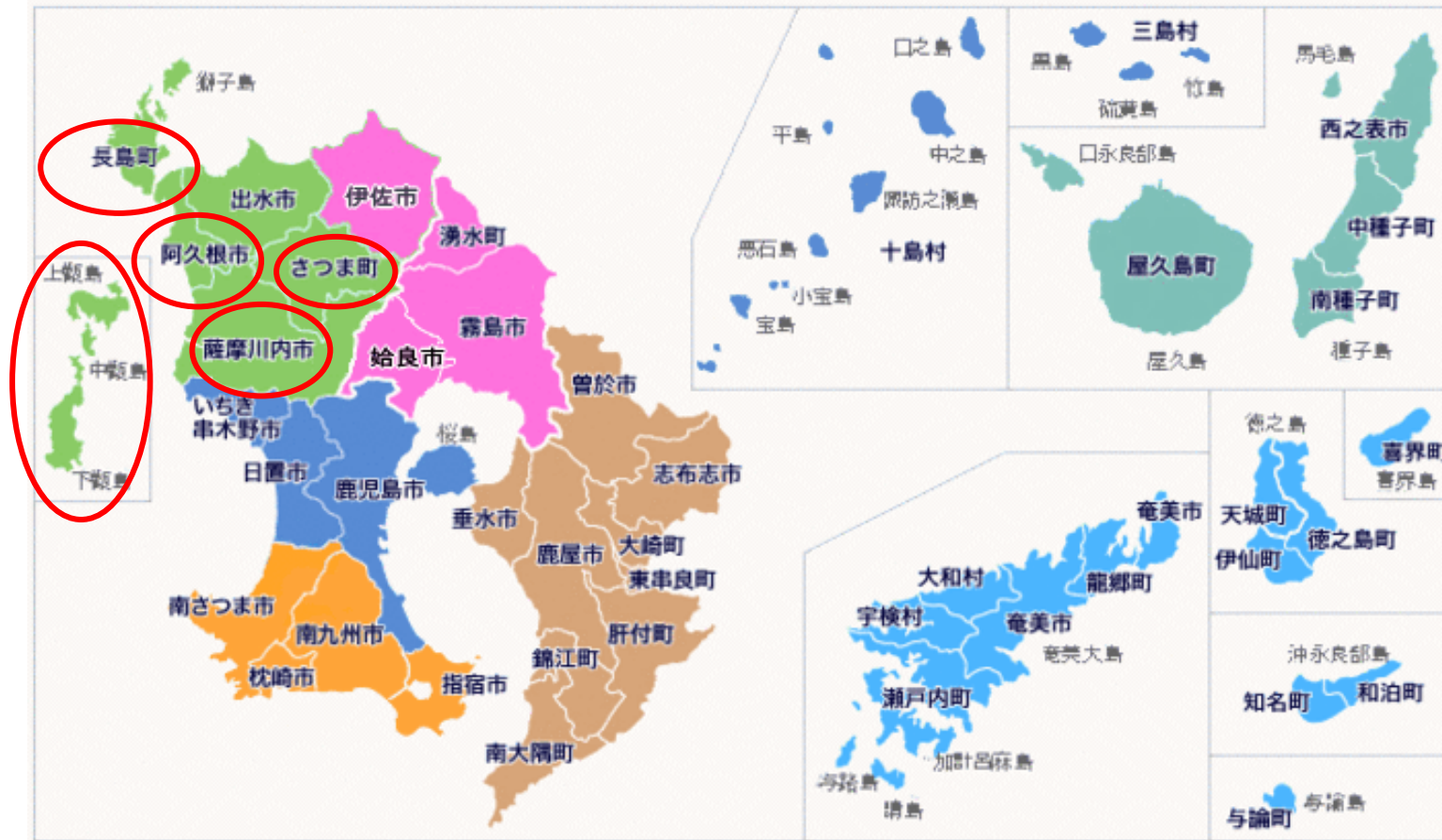
あんしん医療連携シートの延べ記載者数（令和5年1月18日現在）
薩摩郡医師会圏域内 529名（薩摩川内市及びさつま町）
うち、薩摩川内市圏域内 95名

本人の意思確認、支援者たちの共通認識が図られている。

救急隊においても、医療機関情報・かかりつけ医・既往歴等が即座に分かるので、大変助かっている。

※ただし、救急隊は救急要請があれば、医療機関への搬送が任務であり、シートに「延命治療を望まない。」旨の記載があっても、搬送を取りやめることはないのが現状である。

参考：消防本部指令センターの共同運用（令和7年度から）



- ・ 薩摩川内市消防局
（甌島含む）
- ・ さつま町消防本部
- ・ 阿久根地区消防組合
（阿久根市と長島町）

の3消防本部の通信指令センターの共同運用
○ の区域

- ・ 通信指令センターの共同運用に向けて、現在の薩摩川内市消防局のような地図情報は継承される。
- ・ さつま町消防本部も、指令書記載のみではなく、地図情報での確認が可能となる。
- ・ 阿久根地区消防組合及び関係市町に対し、今後「あんしん医療連携シート」の取り組みを紹介出来ないか検討。

余談ですが・・・

2022年12月16日公開開始
「Dr. コトー診療所」

モデルは、薩摩川内市下甕町、薩摩川内市立手打診療所の前所長「瀬戸上Dr」がモデルです。

令和4年5月19日に、漫画「Dr. コトー診療所」主人公のDr. コトー（五島健助）氏と、同作品作者の山田貴敏氏が、本市観光大使に就任されました。



← ※作者の山田様から掲載の許可を得ています。



ご清聴ありがとうございました。